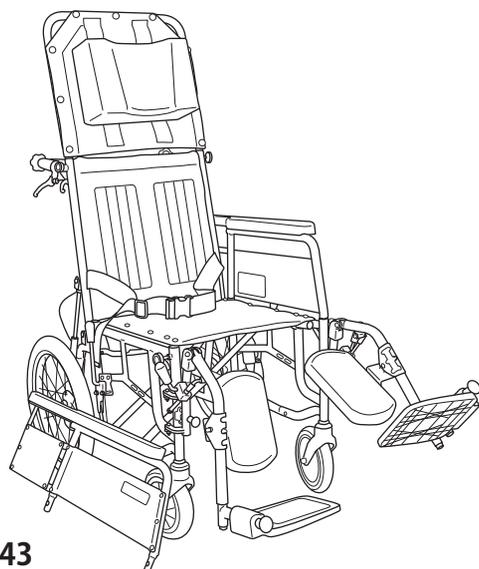




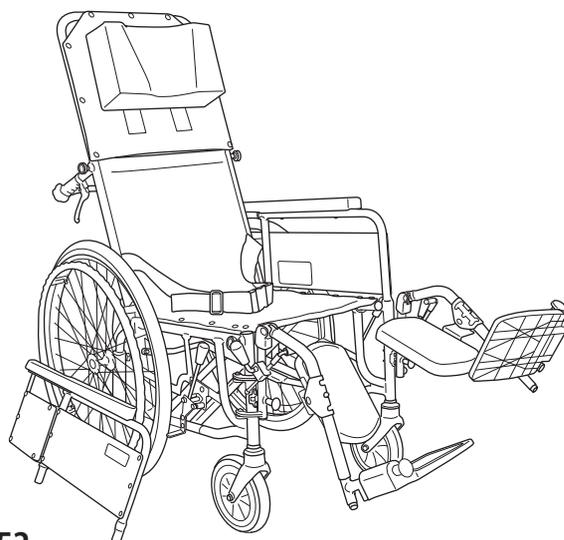
KY20407(01/00)

カワムラサイクル**取扱説明書 / 保証書**

リクライニング車いす RR42/RR43 シリーズ RR52/RR53 シリーズ



RR43



RR52

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、製品を安全に使用していただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

また、本書は必ず携帯していただき必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書は本書裏表紙に記載されていますので、お買い上げいただいた販売店より記入をお受けください。

目次

重要なお知らせ.....1

- 製品の使用目的.....1
- 公共交通機関（タクシー含む）をご利用の場合...1
- 製品を譲渡・貸与する場合.....1
- 修理のご依頼.....1
- 介助者へ.....2
- 車いす使用者は、歩行者あつかい.....2

お使いになる前に.....3

- 各部の名称と働き.....3
- 同梱部品の確認.....4
- 安全に関するご注意.....4
- 警告表示について.....4
- 使用前点検.....7

ご使用方法.....8

- ブレーキを使う.....8
- 車いすをひらく.....9
- 付属品を取り付ける.....10
- 車いすをたたむ.....11
- シートベルトを使う.....11
- アームサポートの操作.....12
- フット・レッグサポートの操作.....13
- リクライニングする.....16

- 車いすに乗る / 車いすから降りる.....17
- 車いすを動かす.....20
- 坂道を走行する.....22
- 段差を乗り越える.....23
- 階段を下りる・上がる.....25
- 保管方法.....26

各部の調整方法.....27

- フットサポートの高さを調整する.....27

お手入れの仕方.....28

- 定期点検.....28
- 清掃する.....29
- 故障かな？と思ったら.....30

仕様.....31

廃棄する場合.....34

連絡先.....34

保証規定.....35

- 保証書.....35

重要なお知らせ

製品の使用目的

本製品は、手動式車いすです。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
この車いすは一人乗り用です。

■自走用をご使用の場合

この車いすは、自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がないリクライニング形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこのリクライニング形が適している場合でも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、リクライニング形が使用に適さなくなることがあります。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がないリクライニング形の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。

なお、購入時はこのリクライニング形が適している場合でも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、リクライニング形が使用に適さなくなることがあります。

■車いすの適合性

車いすが使用者の身体に合わない状態、または使用目的に沿った姿勢を保てない状態での使用はしないでください。

使用者に合った適切なシーティングについてはかかりつけの医師、セラピストや販売店などにご相談ください。

公共交通機関（タクシー含む）をご利用の場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用する公共交通機関または旅行代理店にご相談ください。

※事前確認なしに出発された場合、ご希望の便に間に合わなかったり、ご搭乗・ご乗車できない可能性がございます。



製品を譲渡・貸与する場合

この製品を他の方に譲渡または貸与される際は、必ず本書もあわせてお渡ししてください。

修理のご依頼

異常がある場合は、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

重要なお知らせ（つづき）

介助者へ

- 使用者の身体の一部および衣服（長いマフラー、ひざ掛け、大きめの服や長いネックレス等）がタイヤ、スポーク、キャストおよび地面、建物、通行者に触れたり、挟まったりしないようご注意ください。
- 付添いの際は、車輪に絡まるような長いマフラー、大きめの服や長いネックレスなどを着用しないでください。
- 介助者は、使用者を乗せる前に十分に車いす操作の練習を行ってください。
- 本書に沿った安全教育を周知してください。
- 使用者と介助者の少なくとも一人が日本語を母国語としない人の場合、母国語による安全教育を行ってください。
- 走行中はフットプレートに足がのっているか確認してください。
移動中、足が障害物に当たらないように、確認しながら走行してください。

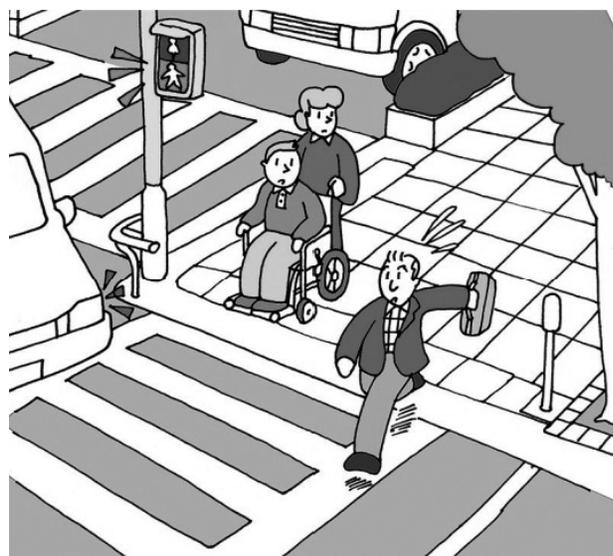
車いす使用者は、歩行者あつかい

道路交通法では、車いす使用者は歩行者として取りあつかわれます。車いす使用時は、歩行者としての交通ルールを守りましょう。

「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」の道路標識がある歩行者専用道路も通ることができます。

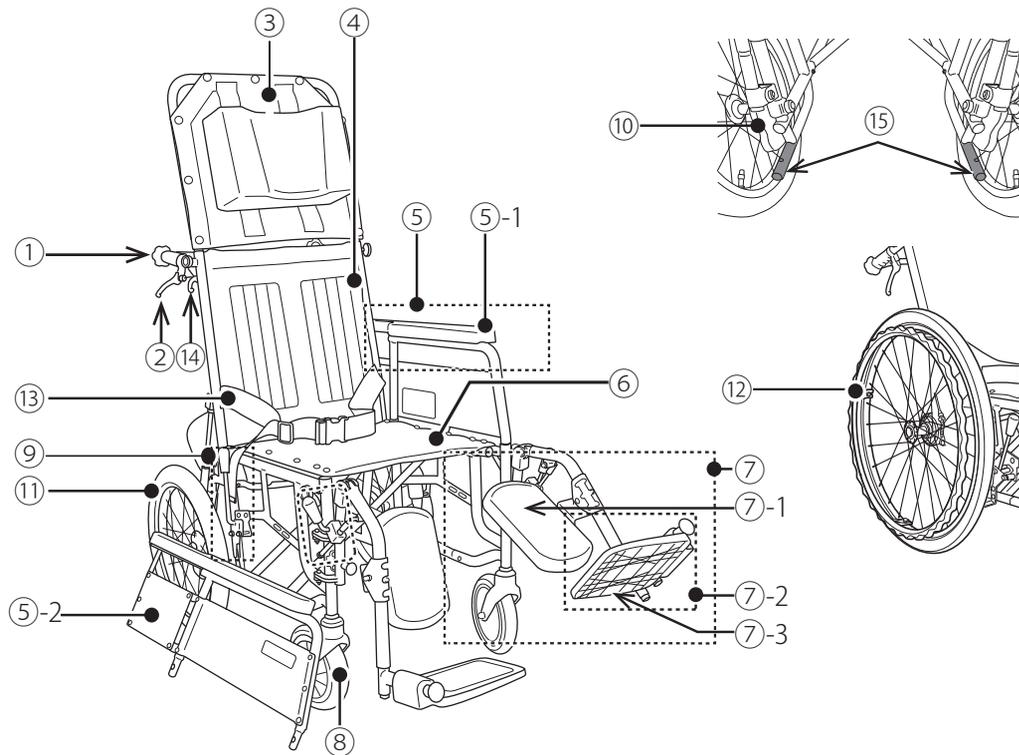
信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

あせらず、ゆとりを持った横断、走行を心がけましょう。



お使いになる前に

各部の名称と働き



① 押手 (手押しハンドルグリップ)

介助者が車いすを操作する際に握ります。

② 介助ブレーキレバー

介助者がブレーキを操作するときに握ります。
(介助ブレーキ付き仕様のみ)

③ 背延長 (枕付き)

使用者の頭部を支持します。

④ バックサポート

使用者の背部を支持します。

⑤ アームサポート

使用者の肘を支持します。

⑤ -1 肘当て

使用者が肘をのせる部品です。

⑤ -2 サイドガード

衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。

⑥ シート

使用者が座る部品です。

⑦ フット・レッグサポート

使用者の足を支持します。

⑦ -1 ふくらはぎパッド (レッグサポート)

使用者の足が後ろに落ちないように支えます。

⑦ -2 フットサポート

フットプレートを支えます。

⑦ -3 フットプレート

使用者の足をのせる部品です。

⑧ キャスタ

自在に方向転換できる小車輪です。

⑨ 駐車用ブレーキ

車いすを停止させておくためのブレーキです。

⑩ 介助ブレーキ (制動ブレーキ)

介助者が車いすを制動するためのブレーキです。

⑪ 車輪 (駆動輪または主輪)

駆動輪です。(介助用の場合は主輪です。)

⑫ ハンドリム

使用者が車いすを駆動するときに使います。
(自走用のみ)

⑬ シートベルト

使用者の身体がずり落ちないように腰を安定させるベルトです。

⑭ リクライニングレバー

リクライニングするときに握るレバーです。

⑮ ティッピングレバー

段差を乗り越える際、介助者がキャストアゲをするときに踏むためのレバーです。

お使いになる前に（つづき）

同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

- 取扱説明書1 ケ
- 背延長1 ケ
- 13mmスパナ1 ケ
- 枕1 ケ

安全に関するご注意

この製品では、次の2つの方法により、使用者の製品使用上の注意事項をお伝えしています。

- この取扱説明書への「警告文」の記載
- 製品上への「警告ラベル」の貼り付け

製品をご使用になる前に、この取扱説明書に記載されているすべての警告文を必ずお読みください。

また、製品に貼られたすべての警告ラベルの場所と内容を確認してください。

万が一、警告文や警告ラベルの意味が十分理解できないときは、当社のサービスセンターまでご相談ください。警告文や警告ラベルの意味を十分理解するまで絶対に製品を使用しないでください。

警告表示について

■表示の説明

取扱説明書の警告文および警告ラベルでは、製品使用中に想定される危険な状態を以下のシンボルマークで表示しています。

警告文や警告ラベルの内容を無視すると、その警告内容に使われたシンボルマークに応じた事故につながるおそれがあります。

シンボルマーク	警告の意味
危険	取扱いを誤った場合、死亡、または重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危害の程度。
警告	取扱いを誤った場合、死亡、または重傷を負うことが想定される危害の程度。
注意	取扱いを誤った場合、傷害を負うことが想定されるまたは物的損害の発生が想定される危害の程度。

■図記号の意味（JIS Z9104 より）

シンボルマーク	警告の意味
 禁止	してはいけないことを示しています。
 強制	必ずしなければならないことを示しています。

■取扱説明書内の表記について

本書では 使用者：車いすに乗車する人
介助者：車いすを介助で操作する人 と表現しています。

危険

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● エスカレーターでは使用しない。 ※介助者がいる場合でも、転倒・転落などにより重大な事故のおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 勝手に改造・分解しない。 ※本来の装着品を外してのご使用も改造の対象となります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本書に記載されている調整箇所以外の調整を行わない。 ※フレームが破損したりシートが破れたりするなど、車いすの強度や耐久性が低下して重大な事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 荷物の運搬や車体のバランスが崩れる医療行為などは行わない。 ● 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらない。 ● シート以外の部分に腰掛けない。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 背ポケットには1kg以上の重いものを入れない。 ● 車いすに荷物を掛けたり、ぶら下がったりしない。 ※転倒・転落し、大変危険です。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすを火気に近付けない。 ※シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 前方が見えないほど身長の高い方や子供は、車いすを押さない。 ● 小さな子供に使用させたり遊ばせたりしない。 ※車いすが不意に動き出し、重大な事故につながるおそれがあります。
<ul style="list-style-type: none"> ● MRI室で使用しない。 ※本製品は非磁性体ではありません。重大な事故につながるおそれがあります。 	
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすに乗り降りする際や一時停止する際は、まわりの安全を確認し、必ず駐車用ブレーキをかけて車いすを固定する。 ※車いすが不意に動き出し、重大な事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗介助は転倒に注意し、利用者の身体状況に合わせて安全に行う。 ● 介助者は使用者の腕がアームサポートから外側に落ちていないか、よく注意しながら操作する。 ※ケガをするおそれがあります。 

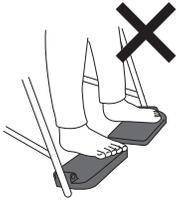
警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 介助者は、車いすに乗って介助しない。 ● 複数の人数で乗らない。 ● 車いす以外の目的に使用しない。 ● 自分で操作できない方や認知症の方の場合、使用者のみで使用しない。 ※事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 杖や傘もしくは大きな荷物など、車いすのシート幅からはみ出るような荷物を持たない。 ※走行中、不意にぶつかったり、相手にケガを負わせるおそれがあります。 
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助・操作を行う。 ※事故のおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● ご使用前には各部を点検する。また、部品等の破損や損傷がある場合は、使用を中止し、すぐに販売店に相談する。 ※車いすの強度や機能が低下し事故につながるおそれがあります。

注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 回転している車輪に指を挟み込まない。 ※指が車輪のスポークに挟まれるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすの操作は、力の無い人、ハイヒールなど不安定な履物を履いて行わない。 ※予期せぬ事故のおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすをぶつける、なげる、落とすなど、衝撃を加えない。 ● 車などに乗せる場合や保管時は、車いすを倒した状態にしない。 ※フレームが歪むなど、破損や故障の原因になります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 著しく高温または低温の環境下では使用しない。 ※部品の変形や作動不良などの不具合が生じるおそれがあります。

注意

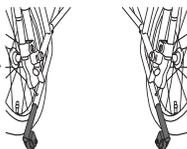
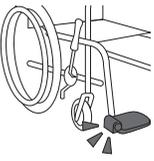
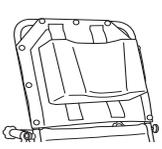
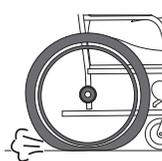
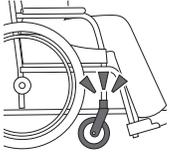
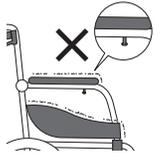
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 各部の操作・調整をする場合は、安定した場所で行う。また駐車用ブレーキをかけて車いすを固定しておく。 ※不安定な場所で行うと車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすを押す場合は必ず押手を使う。 ※バランスを崩して転倒・転落するおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● テーブルに近づく際、介助者は使用者の手足がはさまらないことを確認してから操作する。 ※手足にケガをするおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定した姿勢で座る。 ※転倒・転落のおそれがあります。また極端な前ずれはシートベルトで窒息するおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 靴を履いて使用する。 ※使用者が壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するおそれがあります。 ※介助者も車輪に足をひかれるなどケガをするおそれがあります。 

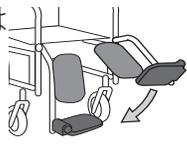
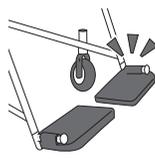
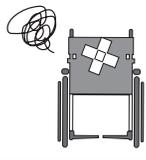
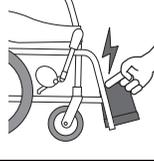
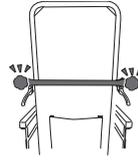
お使いになる前に (つづき)

使用前点検

車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。

使用者自身で点検することが難しい場合は介助者や販売店にご相談ください。

点検項目	点検内容
装着品の確認	転倒防止金具は装着されていますか 
	フット・レッグサポートは装着されていますか 
	背延長は装着されていますか 
車輪	空気が抜けていませんか 
キャスト	キャスト輪はしっかり固定されていますか 
駐車用ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか 
介助ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか 
	ブレーキの利きに左右差はありませんか 
アームサポート	肘当て・アームサポートフレームにガタやネジの緩みはありませんか 

点検項目	点検内容
フット・レッグサポート	エレベーター動作はスムーズですか？ 
フットサポート	フットサポートはしっかり固定されていますか 
フレーム	スムーズに走りますか 
	スムーズにリクライニングはできますか 
	各部ボルトやナットが緩んでいませんか 
	部品などに破損はありませんか 
	車いすにバリ（割れや鋭利な突起）などはありませんか 
	押手はしっかり固定されていますか 
	縮止めはしっかり固定されていますか？ 

ご使用方法

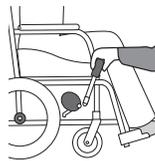
ブレーキを使う

■ 駐車用ブレーキ

使用者または介助者が 車いすを駐停車するためのブレーキです。

注意

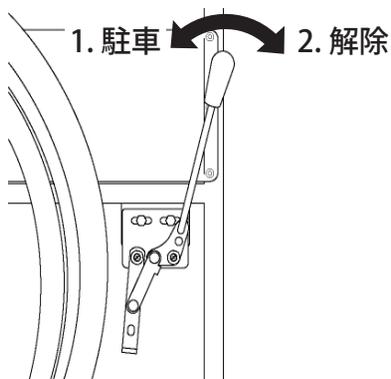
 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 駐車用ブレーキは作動方向以外に力を加えない。また、必要以上に力を加えない。 ※ブレーキが変形・破損するおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none">● 駐車用ブレーキ操作時は指などをはさみこまない。 ※指がタイヤとブレーキ板の間にはさまれケガをするおそれがあります。 

 強制	<ul style="list-style-type: none">● 駐車用ブレーキは必ず手で操作する。 ※足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。 
---	--

1. ブレーキレバーを後方に引いて、車体を固定します。

2. (解除するとき) ブレーキレバーを前方に戻します。

※左図参照



アドバイス

後輪の空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

■ 介助ブレーキ（介助ブレーキ付きのみ）

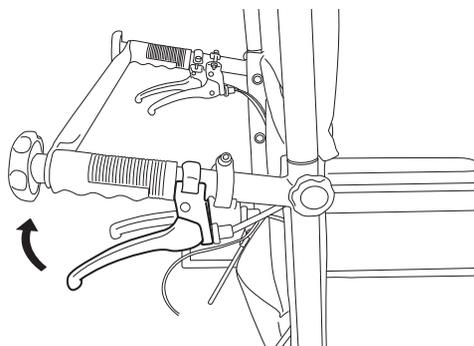
介助者が走行中の車いすを減速させる為のブレーキです。

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 急ブレーキや片側ブレーキは、絶対にかけない。 ※使用者が投げ出されたり、転倒・転落してケガをするおそれがあります。 
---	---

 強制	<ul style="list-style-type: none">● 介助ブレーキをかける時は、必ず両方のブレーキレバーを握り、左右均等の力を加える。 ※バランスを崩してケガをするおそれがあります。 ※転倒のおそれがあります。
---	--

1. 両方のブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。



ご使用方法 (つづき)

車いすをひらく

警告



強制

- 押手の高さは左右で同じにする。
※ バランスを崩し危険です。

注意



禁止

- シートパイプの横や下に手や指を置かない。
※ ケガをするおそれがあります。



強制

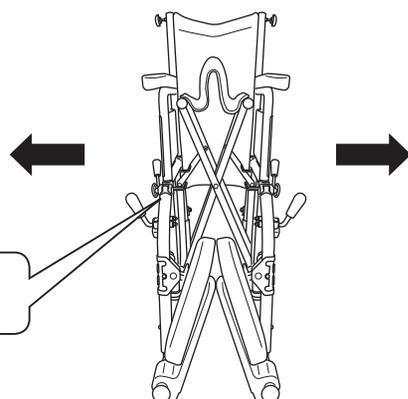
- シートパイプが受けの上になっていることを確認する。

※ フレームが変形するおそれがあります。



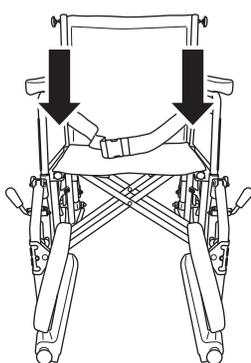
1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。

2. 左右のアームサポートを持って両側に軽く広げます。



シートベルトがフレームにはさまらないように！

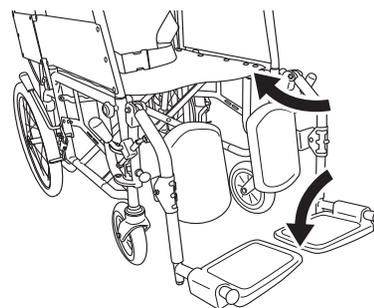
3. シートパイプ部分を押し下げます。



4. 片側ずつ、フットプレートを下ろし、ふくらはぎパッドを旋回します。

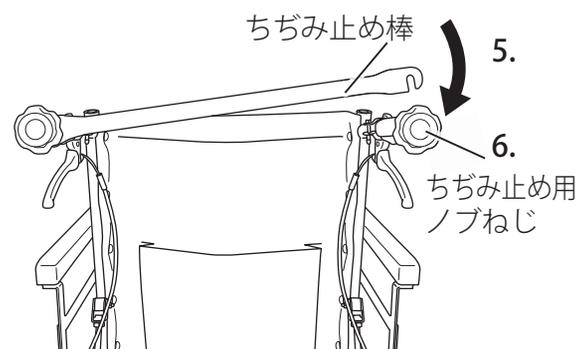
※ 出荷時は、フットプレートを外側に回転させて折りたたんでいます。

※ フットサポートの高さを調整する場合は 27 ページをご参照ください。



5. 左側を回転軸として右側のちぢみ止め用ノブねじにちぢみ止め棒を引っかけます。

6. ちぢみ止め用ノブねじを締め付けます。



7. 背延長を取り付けます。

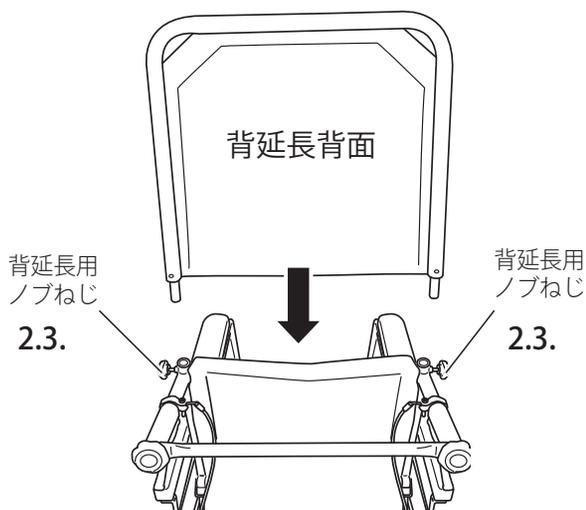
※ 10 ページをご参照ください。

ご使用方法 (つづき)

付属品を取り付ける

■背延長の取り付け方

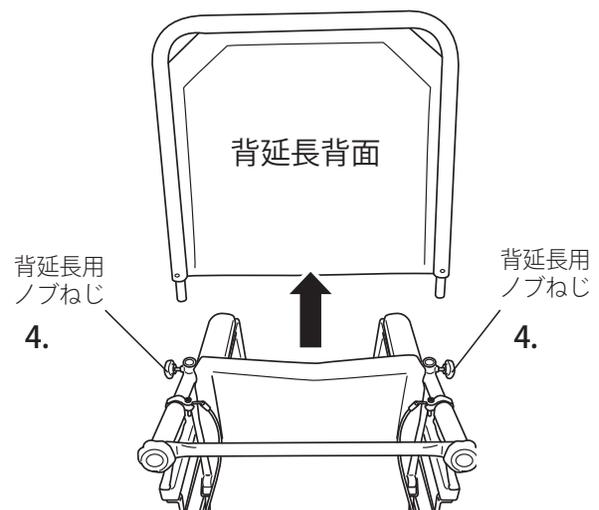
1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 背延長用ノブねじを緩め、フレームの穴に背延長差し込み部を挿入します。この時、左右同時に差し込んでください。
3. 2. で緩めた背延長用ノブねじ (2箇所) を締め、背延長を固定します。



4. (取り外すとき)

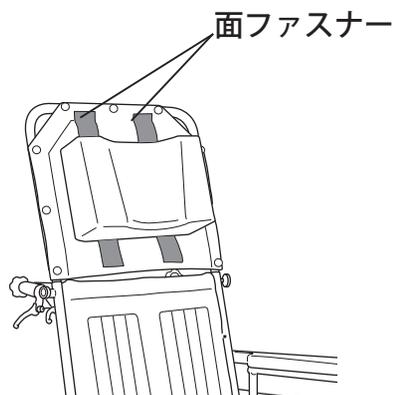
背延長用ノブねじを緩め、背延長両端を両手で持ち、上に引き抜きます。

※ノブねじの紛失を防ぐために、背延長を外したあとは軽くノブねじを締めてください。



■枕の取り付け方

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 背延長の表面の面ファスナーに合わせて任意の位置に枕を取り付けます。



ご使用方法 (つづき)

車いすをたたむ

注意

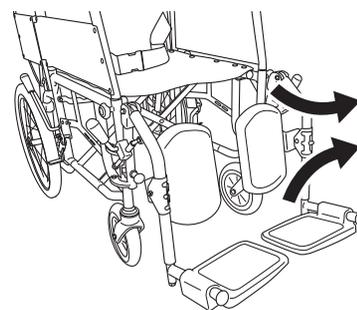


禁止

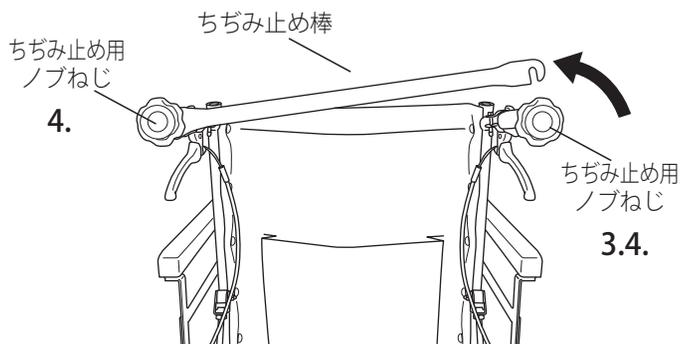
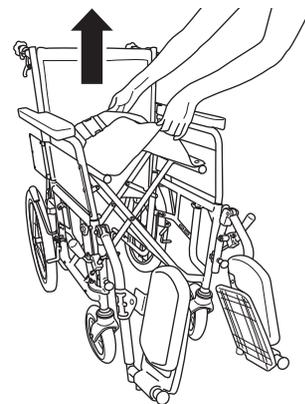
- 矢印の箇所に手や指を置かない。
※はさまってケガをするおそれがあります。



1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 背延長を取り外します。
※ 10 ページをご参照ください。
3. 右側のちぢみ止め用ノブねじを緩めます。
4. 左側のちぢみ止め用ノブねじを回転軸として右側の押手ハンドルグリップ後端のちぢみ止め棒を外します。
5. ちぢみ止めの先端がノブねじ後方を通る位置までやや押し拡げながら、ちぢみ止め棒を押し下げます。
※ ノブねじの紛失を防ぐために、ちぢみ止め棒を外したあとは軽くノブねじを締めてください。
6. 片側ずつ、ふくらはぎパッドを旋回し、フットプレートを跳ね上げます。



7. シート中央部の前後を同時に引き上げ折りたたみます。



シートベルトを使う

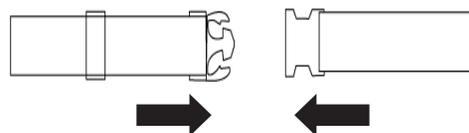
警告



禁止

- 使用者はシートベルトをした状態で立ち上がらない。
※ 車いすごと転倒し、ケガのおそれがあります。

車いすに深く腰掛け、カチッと音がするまでバックルを押し込んでしっかりと留めてください。



ご使用方法（つづき）

アームサポートの操作

アームサポートを取り外すとベッドなどへ移乗しやすくなります。

危険



禁止

- アームサポートは取り外した状態で走行しない。
※転倒やケガをするおそれがあります。

警告



禁止

- アームサポートに過大な力をかけない。
※転倒するなどケガのおそれがあります。



強制

- 座位保持が不安定な使用者は、介助者がサポートした状態で操作する。
※転倒のおそれがあります。
- 使用時はアームサポートがしっかりと固定されていることを確認する。
※アームサポートが不意に動くなどのおそれがあります。

注意



強制

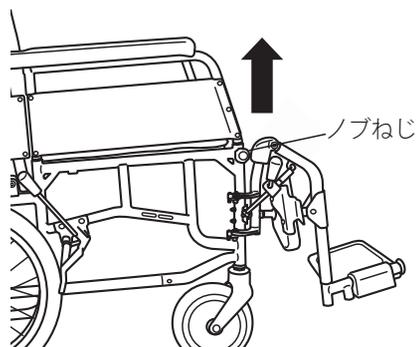
- アームサポート操作時は周りの安全を確認し、使用者に声をかけてから行う。
- アームサポート操作時は、手や指、衣服等のはさみに注意する。
※ケガをするおそれがあります。



■取り外す時

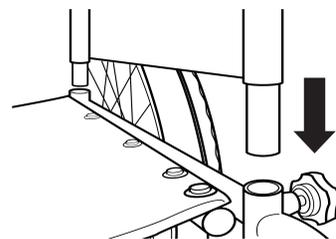
1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. ノブねじを緩め、アームサポート両端を両手で持ち、上に引き抜きます。

※緩めたノブねじが外れない様、フレームにやや締め付けた状態で保管してください。



■取り付ける時

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. アームサポートをフレームに差し込んで、ノブねじを締めます。



ご使用方法（つづき）

フット・レッグサポートの操作

脚部を開閉もしくは着脱することで移乗のスペースが確保されます。

フレーム外側にフット・レッグサポートを旋回する操作のことをスイングアウトと言います。

注意

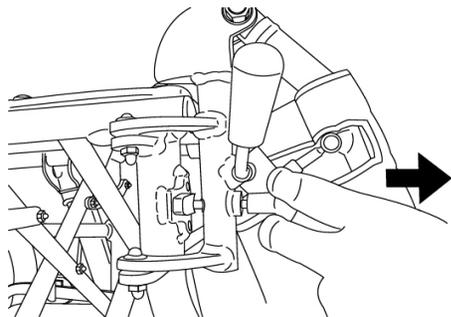
 禁止	●フットプレートに足をのせたまま、可動させない。 ※ケガをするおそれがあります。	 強制	●フット・レッグサポート操作時は、使用者に声をかけてから行う。 ※使用者の手足をはさみ、ケガをさせるおそれがあります。 ※急に車いすが動き、ケガをするおそれがあります。
 強制	●フット・レッグサポート操作時は可動部周辺での手ばさみ、ぶつかりに注意する。 ※ケガをするおそれがあります。		

■フット・レッグサポートを開閉するとき

警告

 禁止	●スイングアウトした状態で走行しない。 ※接触しケガをするおそれがあります。
--	---

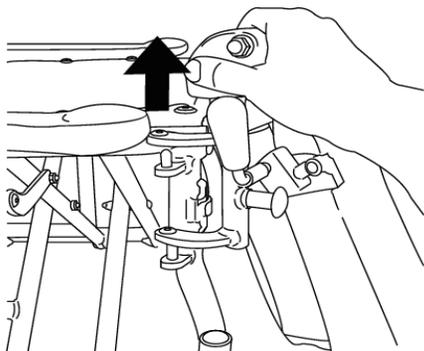
1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. スイングアウトノブを引いたまま、フット・レッグサポートをスイングアウトします。
3. (使用後) カチッと音がするまでフット・レッグサポートを内側に回します。
4. フット・レッグサポートを左右に揺らし、固定されていることを確認します。



ご使用方法 (つづき)

■フット・レッグサポートを着脱するとき

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. スイングアウトノブを引いたまま、フット・レッグサポートを 90 度ほどスイングアウトします。
3. フット・レッグサポートを真上に引き抜いて取り外します。



■レッグ角度を変更するとき

使用者の身体状態にあわせて、任意のレッグ角度に調節できます。

注意



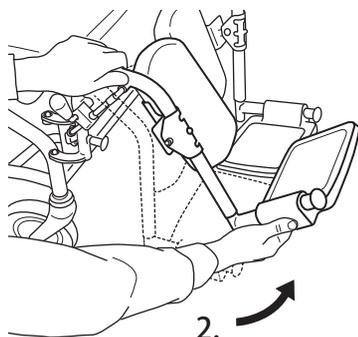
強制

●エレベーターを操作する場合は、両手で操作する。

※ケガをするおそれがあります。

〈レッグ角度を上げる〉

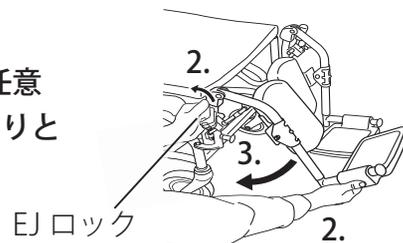
1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. フットプレートを持ち上げると角度が変わり、持ち上げるのをやめるとそこでロックされます。



〈レッグ角度を下げる〉

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 片方の手でフットプレートをしっかりと支えながら、もう一方の手で EJ ロックのニギリを後方に倒します。
※ EJ ロックを後方に倒すとフレームの重みなどで勢いよく下がります。

3. フットプレートを任意の位置までゆっくりと下ろします。



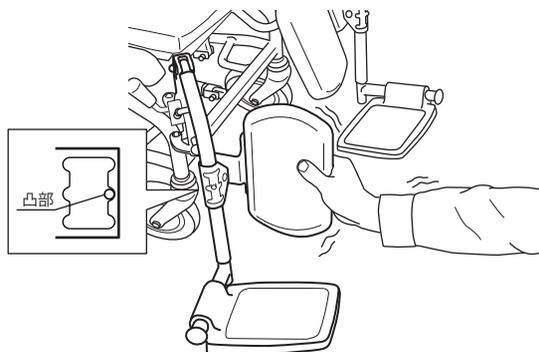
4. EJ ロックのニギリを前方に戻すとフットプレートの角度はロックされます。

ご使用方法（つづき）

■ふくらはぎパッドの位置を変更するとき

使用者の身体状態にあわせて、3段階で調節していただけます。

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. フレームの凸部を金具のスリットに沿わせながら、ゆっくり回転させます。
3. 左右に小刻みに振りながら、スリットに沿って高さを変更します。



4. ふくらはぎパッドを元の位置に戻します。

ご使用方法（つづき）

リクライニングする

リクライニングとは背もたれの角度を変えることです。リクライニングをすることで、体圧分散効果や安定した姿勢をとることができます。

危険



禁止

- 背もたれを倒した状態で食事をしない。
※誤嚥、気道閉塞のおそれがあります。
- 背もたれを倒した状態で車体のバランスを崩すような無理な移乗動作をしない。
- 背もたれを倒した状態でスロープを走行したり、段差を乗り越えたりしない。
- アームサポートを取り外した状態でリクライニングの操作をしない。
※転倒・転落するおそれがあります。

警告



強制

- リクライニング操作時は使用者に声をかけてから行う。
※ケガをするおそれがあります。
- 背もたれが倒れた状態の時は、必ず介助者が付き添う。
※背もたれが倒れた状態の時は体幹が不安定になりやすいので、無理な姿勢になっていないかなどの見守りが必要です。

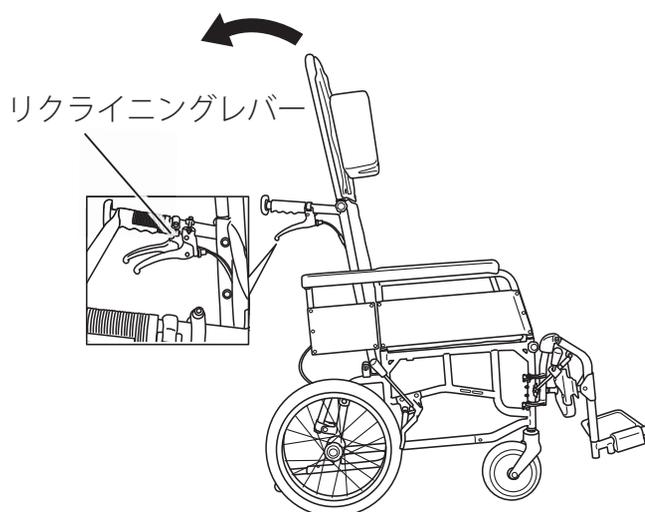
注意



強制

- リクライニングする時は、必ず両方のリクライニングレバーを握り、左右均等の力を加える。
※バランスを崩してケガをするおそれがあります。
- リクライニング操作時に手や衣類のはさみ込みがないことを確認しながら操作する。
※ケガをするおそれがあります。

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. リクライニングレバーを握り、ゆっくりと背角度を調整します。
3. リクライニングレバーから手を離し、背もたれを固定します。

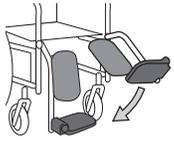


車いすに乗る / 車いすから降りる

危険

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗時はフットプレートの上に乗らない。 ※ 車いすと転倒し、重大な事故につながるおそれがあります。 	
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗時は、介助者が安定した体勢で行う。 ※ 介助者や車いすも巻き込んで転倒し、重大な事故につながるおそれがあります。 	

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾斜地で移乗しない。 ※ 転倒・転落のおそれがあります。
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗する際、フット・レッグサポートを元の位置まで下ろしてから移乗する。 ※ 脚部に荷重のかかるような移乗をした場合、車いすが転倒したり、破損するなどのおそれがあります。 
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗の際、ブレーキにぎりやフットサポートなどに引っかからない様、周りに注意してから行う。 ※ 転倒しケガをするおそれがあります。 

注意

 強制	<ul style="list-style-type: none"> ● 介助者は移乗介助時に、使用者が車いすにぶつからない様注意して操作する。 ※ ケガをするおそれがあります。 	
---	---	---

ご使用方法 (つづき)

■車いすに乗る (下記方法は一例です。安全に留意して、ご使用ください。)

危険



禁止

- 勢いをつけて、座らない。
※後方転倒のおそれがあり、大変危険です。



警告

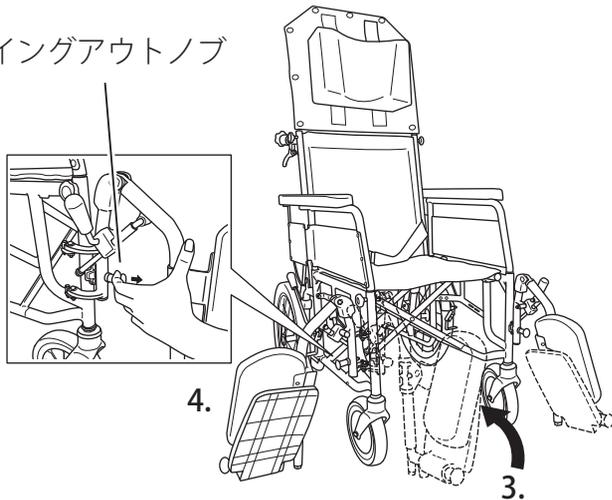


強制

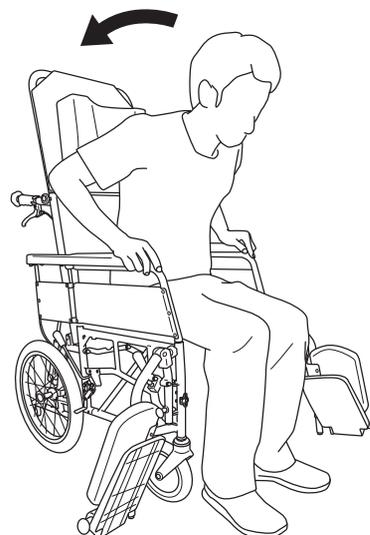
- 身体が安定しない方は、シートベルトを着用する。
※身体が投げ出されることがあり、危険です。
- シートベルト不要の場合は、販売店に取り外しを依頼する。
※使用していないシートベルトが走行中にスポークに絡まると、不意に車いすが停止し、使用者が投げ出されるおそれがあります。

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. ふくらはぎパッドを外側に旋回します。
3. フットプレートを跳ね上げます。
4. スイングアウトノブを引いたまま、フット・レッグサポートをスイングアウトします。

スイングアウトノブ



5. アームサポート前方を両手で持ちながら、ゆっくり座り込みます。



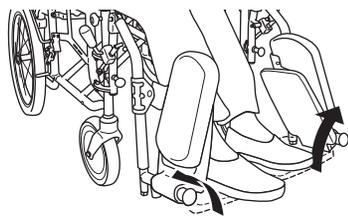
6. カチッと音がするまでフット・レッグサポートを内側に回します。
7. フットプレートを下ろします。
8. ふくらはぎパッドを旋回します。
9. フット・レッグサポートを左右に揺らし、固定されていることを確認します。

ご使用方法 (つづき)

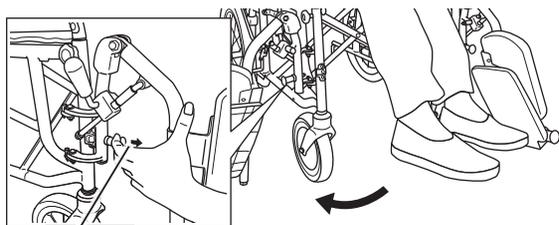
■車いすから降りる (下記方法は一例です。安全に留意して、ご使用ください。)

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
※ シートベルトをしている場合はシートベルトを外します。
2. ふくらはぎパッドを外側へ旋回し、フットプレートから足を下ろします。

3. フットプレートを跳ね上げます。

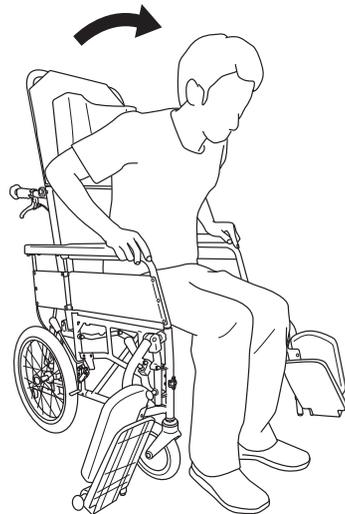


4. スイングアウトノブを引いたまま、フット・レッグサポートをスイングアウトします。



スイングアウトノブ

5. アームサポート前方を両手で持ちながら、ゆっくり立ち上がります。



アドバイス

立ち上がり時は足を手前に引き込み、膝の角度を90度以下にすると立ち上がりやすくなります。

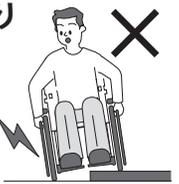
ご使用方法 (つづき)

車いすを動かす

危険

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●踏切の溝やグレーチング(溝蓋)など、くぼみのある路面はできるだけ走行しない。 ※キャストがはまり込み、交通事故などの重大な事故につながるおそれがあります。また、やむを得ず横断する際は介助者に付き添っていただき、はまり込みが無いよう、安全に横断してください。 
	<ul style="list-style-type: none"> ●走行中は、車いすから身体を乗り出さない。 ※転倒・転落のおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ●車道を走行しない。 ●不整地や危険が予測される場所は走行しない。 ●凍結した道路や雪、雨の中、夜間、濃霧、強風その他危険が予想される場合は走行しない。 ※交通事故に巻き込まれたり、車輪が思うように動かさないなど、重大な事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●傘や荷物を持って、片手で走行しない。 ※視界不良やバランスを崩すことによって重大な事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●スピードを出さない。 ※急カーブ、急ブレーキは転倒・転落などの重大な事故につながるおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●足こぎ走行しない。 ※キャストやフレームが足にあたり、ケガや転倒するおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●駅のホームでの走行は注意する。 ※ホームから転落したり、乗降時に電車とホームの間に落ち込んだり、人と接触したりしてケガのおそれがあります。
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ●走行中は身体が前のめりにならないよう注意する。 ※車いすが不安定になり、転倒など重大な事故につながるおそれがあります。

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●急発進、急停車、急な方向転換をしない。 ※転倒・転落など使用者の危険だけでなく、衝突など周りの方にもケガをさせるおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ●石や段差など車輪を片上がりさせた状態で走行しない。 ※転倒してケガをするおそれがあります。 
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ●使用者の足をフットプレートにのせ、ふくらはぎパッドを利用する。 ※足が落ち込み、キャストに巻き込まれてケガをするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストが段差に対して真っ直ぐになっていることを確認してから走行する。 ※キャストが破損して事故につながるおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ●濡れた路面など滑りやすい場所の走行は注意する。 ●片流れ路面でのUターンや走行は、特に速度を落とす。 ※介助ブレーキが効かなかったり、転倒・転落するなどケガをするおそれがあります。 

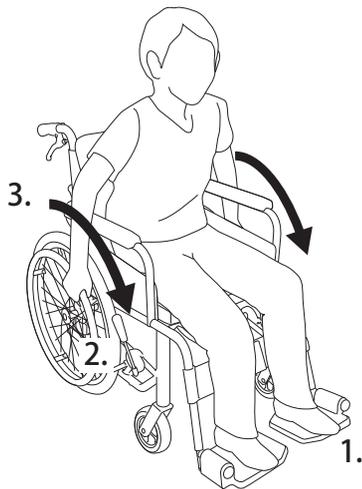
注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●タイヤをもって車輪を操作しない。 ※駐車用ブレーキで指をはさむなどのおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ●転倒防止金具と地面とのすきまに足を入れない。 ※足がはさまるなどのおそれがあります。
 強制	<ul style="list-style-type: none"> ●車いすを動かす場合は駐車用ブレーキが解除されていることを確認する。 ※車いすの各部に異常な力がかかり破損のおそれがあります。 

ご使用方法 (つづき)

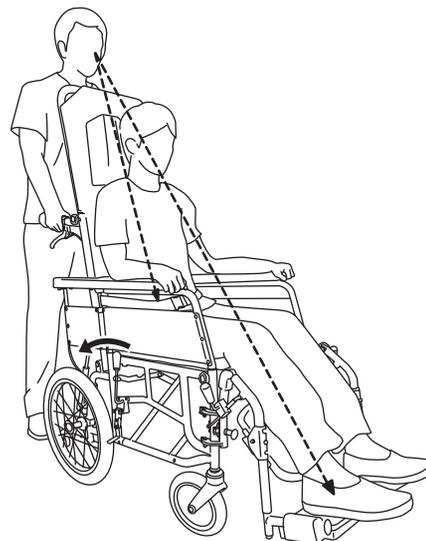
■自走するとき

1. フットプレートに足をのせます。
2. 左右の駐車用ブレーキを解除します。
※ 8 ページをご参照ください。
3. ハンドリムを持って駆動します。



■介助するとき

1. 介助者は使用者の足がフットプレートにのっていることや、シートベルトで体が支えられていることを確認します。
2. 左右の駐車用ブレーキを解除します。
※ 8 ページをご参照ください。
3. 押手を持って進行方向へ車いすを押します。
4. 介助ブレーキを使って速度が出過ぎないように操作します。(介助ブレーキ付き仕様の場合)

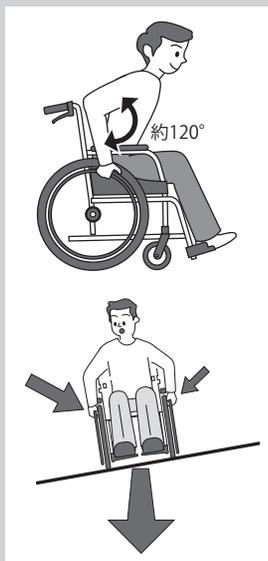


アドバイス

ハンドリムのこぎ始め位置は肘関節角度 120 度が目安です。上図のように円を描くようにこぐと最もこぎやすくなります。

傾いている路面を走行する場合は谷側のハンドリムをやや強めにこぐことで直進できます。

※身体と車いすの仕様により条件は異なります。



アドバイス

傾いている路面を走行する場合は谷側の手押しハンドルをやや強めに押すことで直進できます。

ご使用方法 (つづき)

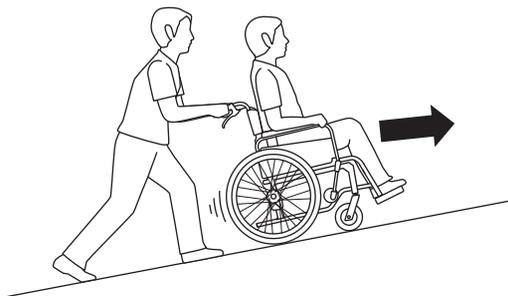
坂道を走行する

危険

	<p>●急な坂道 (勾配 5 度以上) では使用しない。 ※転倒するおそれがあります。</p> 
	<p>●傾斜地、坂道での走行は特に注意すること。 ※車いすが予想外の方向へ進む、スピードが出やすいなど大変危険です。できるだけ介助者に支えてもらうようにしてください。</p>

■上り坂

介助者は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



警告

	<p>●坂道や傾斜地では駐車しない。 ※滑りやすい路面では駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、危険です。</p>
	<p>●坂道を下るときは後ろ向きで走行すること。 ※転倒・転落のおそれがあります。</p> 

■下り坂

坂を下るときは介助ブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。



段差を乗り越える

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none">● 5cm 以上の段差を乗り越えない。※ 後方転倒のおそれがあり、大変危険です。  5cm
---	--

 強制	<ul style="list-style-type: none">● 段差の前では一旦停止すること。※ フレーム及びキャストが損傷するおそれがあります。 
	<ul style="list-style-type: none">● 段差を乗り越える際、転倒防止金具を外して使用する。※ フレームが破損するおそれがあります。

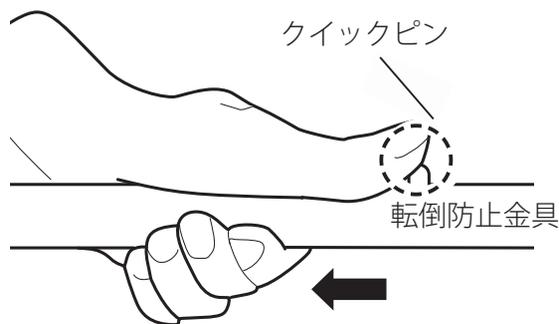
■ 転倒防止金具の取り外し方・取り付け方

危険

 強制	<ul style="list-style-type: none">● 段差乗り越え時以外は転倒防止金具を必ず装着する。※ 転倒・転落の原因となります。
--	---

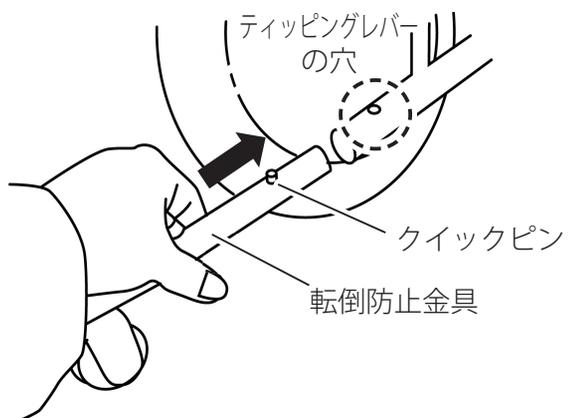
■ 取り外すとき

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. クイックピンを指で押し込んだ状態で、転倒防止金具を後方へ引き抜きます。



■ 取り付けるとき

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. クイックピンを押しながら転倒防止金具を挿入します。

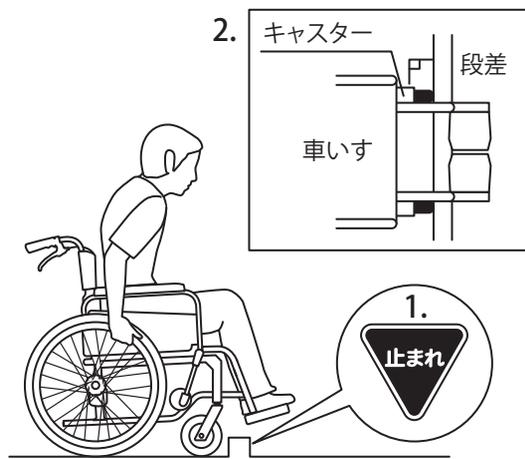


3. クイックピンがティッピングレバーの穴から少し出ていることを確認します。

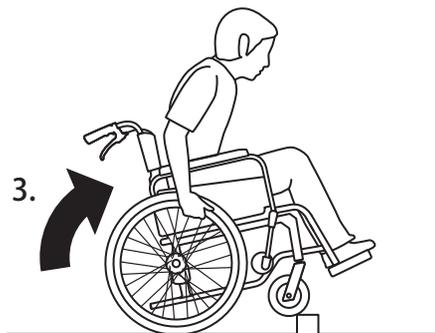
ご使用方法 (つづき)

■自走で乗り越える

1. 段差の前で一時停止します。
2. 段差に対してキャストを直角にあてます。

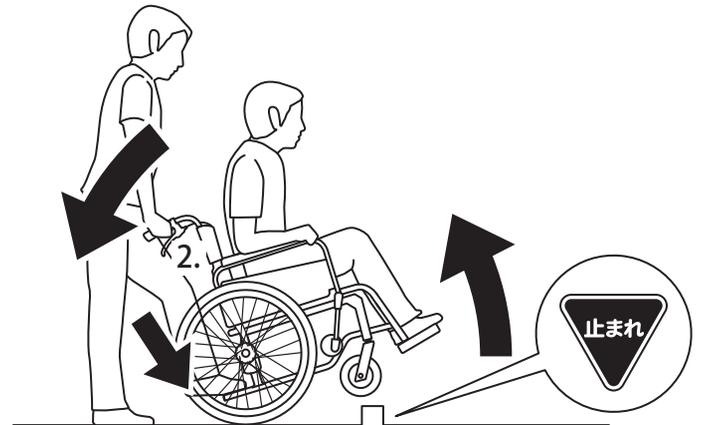


3. 深く座っている状態で身体を前傾させ、ハンドリムを強くこいで、前進します。

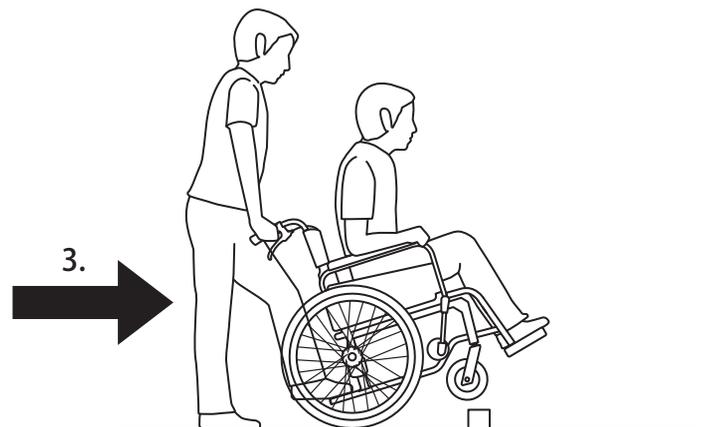


■介助者がいる場合の乗り越え

1. 段差の前で一時停止します。
2. ティッピングレバーを踏みながら、押手を後方へ引き、キャストを上げます。



3. キャスタを上げた状態で前進し、段差を乗り越えます。



階段を下りる・上がる

危険



強制

●車いすを持ち上げる場合、駐車用ブレーキをかけ、固定されているフレームをしっかり支える。

※転倒・転落のおそれがあり大変危険です。



強制

●車いすを持ち上げる場合、使用者を支えたまま、必ず4人以上でフレームを持ち上げる。

※無理に持ち上げると介助者も巻き込んで転倒するおそれがあります。



■階段を上がる

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 固定されているフレームを持ち上げます。

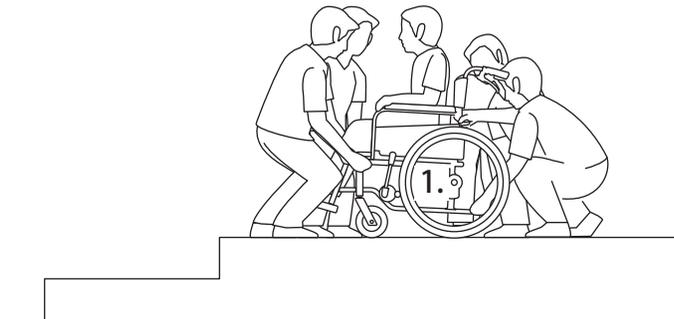


3. 階段にフットプレートが当たらないように注意しながら上ります。

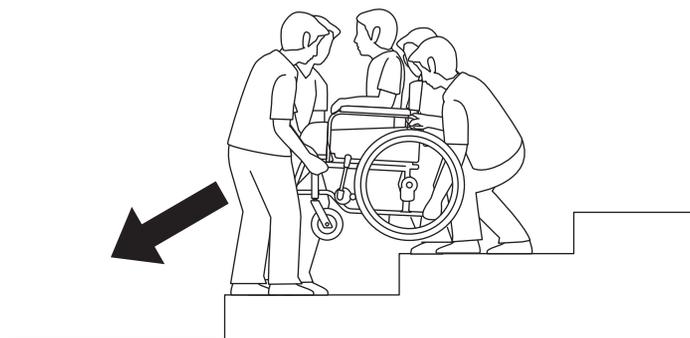


■階段を下りる

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 固定されているフレームを持ち上げます。



3. 車いすを水平に保った状態で下ります。



保管方法

警告



禁止

● 下記のようなところに車いすや部品を放置しない。

- ・ 車道に近いところ
 - ・ 人通りの多いところ
 - ・ 湿気の多いところ
 - ・ 路面に段差や凸凹のあるところ
 - ・ 海沿いの屋外 (潮風の当たるところ)
 - ・ 雨、風のあたるところ
 - ・ ほこりの多いところ
 - ・ 坂道
 - ・ 非常口、消火器、消火栓の前
 - ・ 暑い日や寒い日の戸外
 - ・ 直射日光の当たるところ (車内も含む)
 - ・ 子供がいたずらをするおそれのあるところ
 - ・ ストーブなど火気を使用し高温になるところ
- ※事故やサビ・破損の原因になります。

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。また、保管の際は必ず車いすを立てた状態にしてください。倒した状態で保管すると車軸やフレームが破損するおそれがあります。

■長期保管について

長期間保管すると、未使用でもタイヤなどが劣化しているおそれがあります。使用前点検 (7 ページ) を実施して、必要があれば部品を交換してから使用してください。

長期間駐車用ブレーキをかけたまま放置した場合、ブレーキによるタイヤの凹みが発生するおそれがあります。一度変形したタイヤは、回復困難であるため、保管時は駐車用ブレーキをかけずタイヤ止めなどを使用してください。

各部の調整方法

フットサポートの高さを調整する

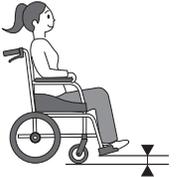
フットサポートを適切な高さに調整することで、使用者の座位が安定したり、体圧分散効果があります。



アドバイス

ケガ防止の為、作業するときは薄手の手袋を着用してください。

注意

	<p>●フットプレートと地面との隙間が 5cm 以下になるような調整はしない。 ※フットプレートが障害物にぶつかり、破損するおそれがあります。</p> 
--	---

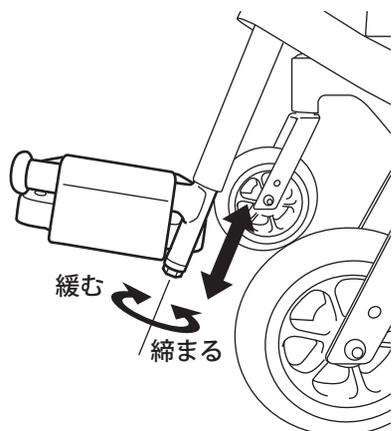
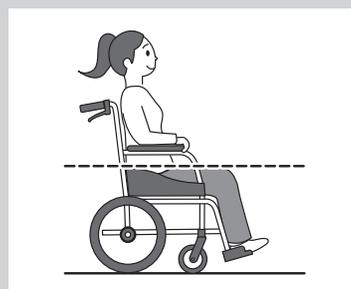
	<p>●フットサポートの高さ調整後は、フットサポートがしっかりとフレームに固定されていることを確認する。 ※固定が不十分な場合、不意にフットサポートが動き、転倒のおそれがあります。</p>
--	--

1. 駐車用ブレーキをかけ、左右の車輪をロックします。
※ 8 ページをご参照ください。
2. 片側の手でフットサポートを支えながら、もう一方の手で付属の工具を使って、フットサポート先端のボルトをゆっくりゆるめます。
(半～1周ほど回すとフットサポートが動きます。ゆるめすぎると固定しにくくなります。)
3. 適当な高さにあわせ、ボルトを締めます。



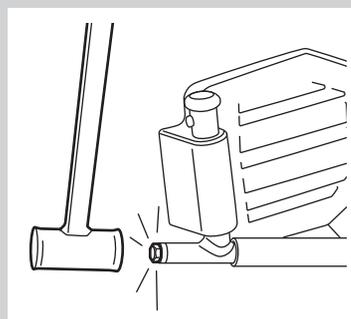
アドバイス

太ももが床面と水平になる高さを目安に調整してください。



アドバイス

フットサポートが固くて動かない場合は、下図のように車いすを倒し、プラスチックハンマー等でボルト頭を叩いてください。



お手入れの仕方

定期点検

安全に使用して頂くためにご自身または取扱店で定期的に点検をして頂きますようお願いいたします。長期間使用されなかった場合もリスト内の点検をしてください。点検後、必要に応じて部品交換または各部調整をしてからご使用ください。また点検後に異常が見つかった場合は、使用を止めて必ず取扱店にご連絡ください。

警告



禁止

●ブレーキ部品には絶対に注油しない。
※ブレーキ力が低下し、重大な事故につながるおそれがあります。

点検項目	点検内容	点検者	年月日	点検者	年月日
装着品の確認	フット・レッグサポートは装着されていますか				
	背延長・枕は装着されていますか				
	転倒防止金具は装着されていますか				
車輪	空気圧は 400kPa(24in)、360kPa(16in) ですか				
	緩み、損傷、摩耗はありませんか				
	タイヤバルブセットに緩み、損傷はありませんか				
	キズ、ひび割れはありませんか				
	異物が刺さっていませんか				
	スムーズに回転しますか				
	車輪を回転させたとき、タイヤにゆらぎはありませんか				
キャスト	しっかり固定されていますか				
	キャスト輪はしっかり固定されていますか				
	キズ、ひび割れはありませんか				
	異物が刺さっていませんか				
駐車用ブレーキ	スムーズに回転しますか				
	車輪はしっかりと止まりますか				
	取付部が緩んでいませんか				
効きに左右差はありませんか					
介助ブレーキ(介助ブレーキ付きのみ)	車輪はしっかりと止まりますか				
	介助ブレーキの取付部が緩んでいませんか				
	効きに左右差はありませんか				
	ブレーキワイヤに切れ、ほつれはありませんか				
ブレーキワイヤにサビはありませんか					
アームサポート	肘当てにガタはありませんか				
	肘当てのネジは緩んでいませんか				
	アームサポートフレームにガタはありませんか				
	スムーズに操作できますか				
肘当てにキズや亀裂はありませんか					
フット・レッグサポート	フットサポートはしっかり固定されていますか				
	フットプレートが自重で落下しませんか				
	固定は確実にできますか				
	スムーズに操作できますか				
フットプレートにキズや割れはありませんか					
シート	著しいたるみはありませんか				
	ネジは緩んでいませんか				
	やぶれ・ほつれはありませんか				
	背延長の面ファスナーにほこりやゴミがたまっていませんか				
全体	各部にガタつきはありませんか				
	ボルト・ナットが緩んでいませんか				
	押手はしっかり固定できていますか				
	異音はありませんか				
	両車輪と両キャストは全て地面に接地していますか				
	まっすぐ走行しますか				
	折りたたみはスムーズに行えますか				
	リクライニングはスムーズに操作できますか				
リクライニングは動作を途中で止めた場合もしっかりロックされていますか					

お手入れの仕方（つづき）

清掃する

安全に使用して頂くためにご自身または販売店で定期的に清掃してください。

注意

 禁止	● 中性洗剤以外を使用しない。 ※変質・変色・傷みの原因となります。
	● たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しない。 ※傷みの原因となります。

 禁止	● 熱湯やオゾンで洗淨しない。 ※故障・変質・変色・変形の原因となります。

■金属部品（主フレーム）

主フレームなどの金属部やスポークは、乾いた布でよく汚れを落として拭き取ってください。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れには、市販の中性洗剤をご使用ください。汚れを除去した後はきれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

■樹脂（プラスチック）部品

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

■クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。取り除かないと、接着力が弱まり、衝撃を受けた際に転落事故の原因となります。

<汚れがひどいとき>

- ・汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ・しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ・洗濯機、乾燥機の使用は避けてください。

■タイヤやゴム製部品

水を含ませ強く絞った布で拭いてください。

お手入れの仕方（つづき）

故障かな？と思ったら

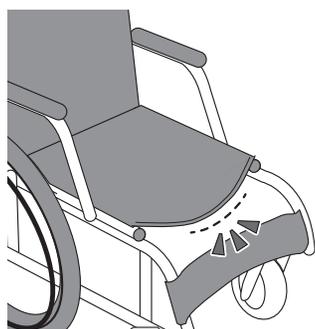
車いすを使用されていて“おかしいな”と思ったら下表をご確認ください。
表以外の異常が発生した場合はそれ以上使用せず、取扱店にご相談ください。
車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。

症状	確認事項	対応
車輪およびキャストがスムーズに回転しない	車輪の回転中心に髪の毛などが絡まっていませんか？あるいはシートベルトやワイヤが車輪に干渉していませんか？	絡まっている場合や干渉している部品がある場合は除去してください。
車輪あたりから異音がする	車輪の回転中心に髪の毛などが絡まっていませんか？あるいはシートベルトやワイヤが車輪に干渉していませんか？	絡まっている場合や干渉している部品がある場合は除去してください。
駐商用ブレーキが効かない	空気圧は 400kPa(24in)、360kPa(16in) (指で押すと指が押し戻される程度の強さ) になっていますか？	空気が少ない場合は空気入れで空気を入れてください。
タイヤの空気がすぐ抜ける	バルブを一度取り外し、虫ゴムを確認してください。ゴムは劣化していませんか？	劣化している場合は虫ゴムの交換が必要です。販売店にご相談ください。
	虫ゴムに問題がない場合でも、1日程度放置しただけで空気が抜けていませんか？	空気が抜ける場合はチューブが破損している可能性があります。販売店にご相談ください。
介助ブレーキの効きが甘い (介助ブレーキ付きのみ)	介助ブレーキレバーを握った際に押手グリップに介助ブレーキレバーが接触していませんか？	ワイヤがのびている可能性があります。販売店にご相談ください。
リクライニングできない	ワイヤ・シートベルトがフレームに引っかかっていますか？	引っかかっている部分がある場合は除去してください。

※ 当社は「英式バルブ」のタイヤを採用している為、単体の圧力ゲージでもタイヤ・チューブの正確な空気圧測定はできません。空気圧は目安になります。

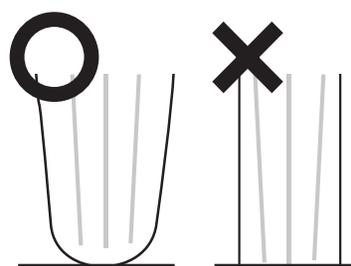
〈部品交換の目安〉

シート



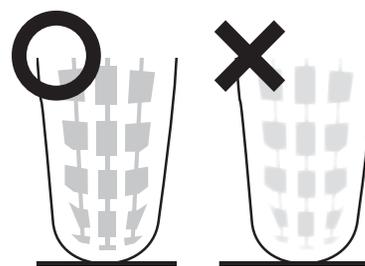
著しいたるみ

キャスト



接地面が広い

車輪



トレッドパターンが薄い

仕様

各部寸法

※記載の寸法や重量は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

(cm)

品名・名称	RR42-N<NB>	RR43-N<NB>
座幅	40	
前座高	47	
後座高	45	
フットサポート・シート間距離	40	
シート奥行	40	
バックサポート高	83	
アームサポート高	24	
全高	128	
折りたたみ	92	
全幅	64 <65>	60 <61>
折りたたみ	36 <37>	33 <34>
全長	121 (最長 180)	114 (最長 180)
折りたたみ	90	79.2
重量 (kg)	27.2 <28.2>	25.1 <26.1>

各部仕様

品名・名称	標準仕様・規格			
	RR42-N	RR42-NB	RR43-N	RR43-NB
フレーム	リクライニング式フレーム 平面式クロス			
折りたたみ方式	左右折りたたみ式			
後輪	24 インチ エア ノーマル式	24 インチ エア バンド式	16 インチ エア ノーマル式	16 インチ エア バンド式
タイヤ	24 × 1-3/8 エアタイヤ		16 × 1.50 エアタイヤ	
チューブ	24 × 1-3/8 エアタイヤ 英式バルブ		16 × 1.50 エアタイヤ 英式バルブ	
ハンドリム	24 インチ波型 波型・黒		—	
キャスト	7 インチ ニューソフト パッキン式樹脂ヨーク			
キャスト車輪	7 インチ ニューソフトキャスト車輪			
ヨーク	7 インチ パッキン式樹脂ヨーク			
バックサポート	調整なしシート：No.91 エコネイビー			
シート	調整なしシート：No.91 エコネイビー			
シートベルト	ワンタッチ樹脂式 黒色			
アームサポート	標準型 着脱式			
フット・レッグサポート	スイングアウト&エレベーター式			
フットサポート	D-3. 標準式 φ 16.0 用 黒色			
フットプレート	d. 黒色			
レッグサポート	ふくらはぎパッド 黒色			
駐車用ブレーキ	C. カバー無しタグルブレーキ			
にぎり	黒色			
介助ブレーキ	—	バンド式	—	バンド式
ハンドグリップ	RR42/43 用			
SG マーク	—			

仕様 (つづき)

各部寸法

※記載の寸法や重量は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。
(cm)

品名・名称	RR52-N<DN>	RR52-NB<DNB>	RR53-N<DN>	RR53-NB<DNB>
座幅	40			
前座高	45			
後座高	43		42	
フットサポート・シート間距離	38 ~			
シート奥行	40			
バックサポート高	80			
アームサポート高	25			
全高	122			
折りたたみ	82			
全幅	64	65	61	62
折りたたみ	38	39	35	36
全長	121 (最長 174)		115 (最長 174)	
折りたたみ	89		83	
重量 (kg)	22.0 <21.8>	22.9 <22.7>	20.0 <19.8>	20.9 <20.7>

各部仕様

品名・名称	標準仕様・規格			
	RR52-N<DN>	RR52-NB<DNB>	RR53-N<DN>	RR53-NB<DNB>
フレーム	リクライニング式フレーム 平面式			
折りたたみ方式	左右折りたたみ式			
後輪	24 インチ エア ノーマル式	24 インチ エア バンド式	16 インチ エア ノーマル式	16 インチ エア バンド式
タイヤ	24 × 1-3/8 エアタイヤ		16 × 1.50 エアタイヤ	
チューブ	24 × 1-3/8 エアタイヤ 英式バルブ		16 × 1.50 エアタイヤ 英式バルブ	
ハンドリム	24 インチ波型 波型・黒		—	
キャスタ	7 インチ ニューソフト パッキン式樹脂ヨーク			
キャスタ車輪	7 インチ ニューソフトキャスタ車輪			
ヨーク	7 インチ パッキン式樹脂ヨーク			
バックサポート	調整なしシート：A3 紺チェック			
シート	調整なしシート：A3 紺チェック			
シートベルト	ワンタッチ樹脂式 黒色			
アームサポート	N/NB：標準型 着脱式 DN/DNB：デスク型 着脱式			
フット・レッグサポート	スイングアウト&エレベーター式			
フットサポート	D-3. 標準式 φ 16.0 用 黒色			
フットプレート	d. 黒色			
レッグサポート	ふくらはぎパッド 黒色			
駐車用ブレーキ	C. カバー無しタグルブレーキ			
にぎり	黒色			
介助ブレーキ	—	バンド式	—	バンド式
ハンドグリップ	RR52/53 用			
SG マーク	—			

廃棄する場合

製品を廃棄する場合は、各自治体の取決めに従ってください。

連絡先

■本社

〒 651-2411 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1 TEL078-969-2800

■東京サービスセンター

〒 110-0013 東京都台東区入谷 1-8-3 TEL03-3874-3511

■名古屋サービスセンター

〒 487-0027 愛知県春日井市松本町 1-3-11 TEL0568-52-4800

■本店サービスセンター

〒 651-2411 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1 TEL078-969-2800

■福岡サービスセンター

〒 819-0055 福岡県福岡市西区生の松原 1-18-3 TEL092-882-4722

- 修理・お手入れ・お取扱いなど、本書を読んでもわからないときは、製品の使用を中止し、お買い上げいただいた販売店へお問い合わせください。
- 転居や贈答品などでお困りの場合は、製品名・品番をご確認の上、上記連絡先へご相談ください。
- 本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に一部予告なく変更することがあります。

保証規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で、お買い上げ日より1年以内に故障した場合は無償修理または交換いたします。
(下記記載の消耗部品および交換部品は含みません。)
 - ・キャスト
 - ・シート類
 - ・ワイヤ
 - ・フットプレート
 - ・バンドブレーキカバー
 - ・肘当て
 - ・車輪(タイヤ、チューブ、虫ゴムなど)
 - ・メカニカルロック
- 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、お買い上げ頂いた販売店へご連絡ください。
- 無償保証期間内でも次の場合には保証適用除外となります。
 - イ) ご使用による消耗および取扱不注意による破損
例: タイヤの摩耗およびパンク、ワイヤ、シートの破損等
 - ロ) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
 - ハ) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
 - ニ) 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
 - ホ) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
 - ヘ) 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
 - ト) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
 - チ) 日本国外でご使用の場合
 - リ) 保証書の提示がない場合
- 保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 補修用性能部品は、製造打ち切り後5年保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 保証書にご記入頂いた個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検の為に記載内容を利用して頂く場合がございますので、ご了承ください。

保証書

製品名 RR42/RR43 シリーズ
 RR52/RR53 シリーズ

お客様名

ご住所 〒

TEL () -

販売店名

ご住所 〒

TEL () -

お買い上げ日 年 月 日

(保証期間は上記より1年間)

製造販売元 株式会社カワムラサイクル
〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地3-9-1 TEL078-969-2800

一度使用された製品は、原則としてお取替えできません。
お問い合わせは、お買い上げいただいた販売店へお申し付けください。